

- 問1 天智天皇が政治の拠点として定めた場所は、現在の滋賀県にある琵琶湖付近に位置しています。この都の名称として正しいものを選びなさい。  
(2021年 滋賀公立入試 類似)
1. 大津宮 2. 飛鳥浄御原宮 3. 難波宮 4. 藤原京
- 問2 中大兄皇子が中臣鎌足らとともに蘇我氏を倒し、天皇を中心とする国づくりを目指して始めた一連の政治改革において、目指すべき国家像を説明したのとして最も適切なものを選びなさい。  
(2017年 沖縄公立入試 類似)
1. 土地と人民は国家（天皇）が所有・管理するという「公地公民」の原則に基づく中央集権国家 2. 鉄製の農具や武器を独占した「ワカタケル」のような強力な大王が各地の豪族を力で従える軍事国家 3. 仏教の力を政治に利用するため、全国に国分寺を建立し、僧侶を官吏として登用する宗教国家 4. 地方の有力な武士団に土地の支配権を認め、朝廷はその仲裁役としてのみ機能する封建国家
- 問3 7世紀の朝鮮半島では、唐と新羅が連合して勢力を拡大していました。660年に滅亡したある国を再興させるため、日本（倭）は大規模な軍隊を派遣して唐・新羅の連合軍と戦いましたが、663年の白村江の戦いで大敗を喫しました。日本が復興を支援したこの国はどこですか。  
(2023年 福島県公立入試 類似)
1. 百済 2. 高句麗 3. 新羅 4. 加羅（任那）
- 問4 645年に始まった大化の改新では、天皇を中心とする新しい国家体制の構築が目指されました。この改革において、遣隋使や遣唐使として中国に渡り、大陸の進んだ政治制度や法律を学んで帰国した留学生や学問僧が任命された、政治の助言を行う重要な役職の名称として正しいものはどれですか。  
(2024年 東京都公立入試 類似)
1. 国博士 2. 檢非違使 3. 執権 4. 防人
- 問5 7世紀初めに小野妹子らが使節として中国の隋へ送られた背景として、当時の日本が目指していたことについて述べたものとして最も適切な説明はどれですか。  
(2018年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 中国の進んだ制度や文化を学び、国家の仕組みを整えるため 2. 中国の皇帝から日本の王としての地位を認めてもらうため 3. 中国の軍事力を背景に、朝鮮半島の新羅を攻撃するため 4. 中国で流行していた禅宗の教えを、僧に学ばせるため
- 問6 聖徳太子が制定した「十七条の憲法」の目的として、当時の政治的背景から考えて最も適切な説明はどれか。  
(2024年 徳島公立入試 類似)
1. 豪族どうしの争いを鎮め、役人としての自覚を持たせることで天皇中心の政治を目指した。 2. 氏姓制度を維持するために、有力な豪族が代々高い官職を独占することを認めた。 3. 唐の優れた法律にならい、日本で初めてとなる刑罰のきまりと政治の仕組みを明文化した。 4. 神話の時代から続く天皇の歴史を記録することで、天皇による統治の正当性を内外に示した。
- 問7 7世紀初め、聖徳太子（厩戸王）らが中央集権的な国家体制を整えるために定めた、個人の才能や功績に応じて位階を授ける制度を何といいますか。  
(2022年 宮城県公立入試 類似)
1. 冠位十二階 2. 十七条の憲法 3. 公地公民 4. 班田收授法
- 問8 663年の白村江の戦いにおいて、日本が百済の復興を支援したものの唐・新羅の連合軍に敗北した出来事は、その後の日本の国家づくりに大きな影響を与えました。この敗戦を受けた当時の日本の対応として、最も適切な説明はどれですか。  
(2023年 福島県公立入試 類似)
1. 唐や新羅の侵攻を恐れ、大宰府の北側に水城を築き、各地に山城を作って防衛を強化した。 2. 新羅と対抗するために、それまで対立していた高句麗と軍事同盟を結んで朝鮮半島へ再進出した。 3. 唐との国交を完全に断絶し、遣唐使の派遣を停止することで海外の争いから距離を置いた。 4. 敗戦の責任を問い、中大兄皇子を退位させて、新羅から受け入れた仏教を中心とした政治に切り替えた。
- 問9 飛鳥時代から平安時代にかけて、日本の朝廷は先進的な制度や文化を学ぶために中国へ使節を派遣しました。この使節の名称にも使われており、日本の律令国家形成に大きな影響を与えた中国の王朝名を選びなさい。  
(2023年 秋田県公立入試 類似)
1. 唐 2. 隋 3. 宋 4. 元
- 問10 7世紀、日本は友好関係にあった百済が滅亡した際、その復興を支援するために朝鮮半島へ大軍を送りました。このとき、日本軍が白村江で戦い、大敗を喫した相手である二つの国の連合軍として正しいものを次の中から選びなさい。  
(2023年 福井公立入試 類似)
1. 唐と新羅 2. 隋と新羅 3. 唐と高句麗 4. 元と高麗
- 問11 7世紀、朝鮮半島では唐と新羅が結んで百済や高句麗を滅ぼしました。日本（倭）は百済の復興を支援するために大軍を送りましたが、663年に朝鮮半島西岸の白村江で大敗しました。この「白村江の戦い」において、日本が戦った相手の組み合わせとして正しいものはどれか、選びなさい。  
(2025年 茨城公立入試 類似)
1. 唐・新羅の連合軍 2. 唐・高句麗の連合軍 3. 新羅・高句麗の連合軍 4. 百済・新羅の連合軍
- 問12 飛鳥時代に聖徳太子が小野妹子を遣隋使として派遣した際、当時の日本（倭）が目的としていたことや、外交上の姿勢として正しい説明はどれか。  
(2016年 香川公立入試 類似)
1. 中国の進んだ文化や制度を取り入れるとともに、従来の形式にとらわれない対等な立場での外交を目指した。 2. 唐の優れた律令制度を学ぶために、阿倍仲麻呂などの留学生を送り込み、国内の法整備を急いだ。 3. 後漢の皇帝に朝貢して金印を授かることで、九州地方にある奴国の支配力を強めようとした。 4. 魏の皇帝から「親魏倭王」の称号を得ることで、その武力を背景に邪馬台国による連合を維持しようとした。
- 問13 7世紀後半、日本が対馬や九州、瀬戸内海沿岸などに「山城」を築き、大規模な国防強化を行うこととなった直接の理由として正しいものはどれですか。  
(2016年 秋田県公立入試 類似)
1. 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れ、日本本土への侵攻が懸念されたため。 2. 蝦夷（えみし）との戦いが激化し、東北地方の支配権を確立するため。 3. 平将門の乱や藤原純友の乱が発生し、地方の治安が急速に悪化したため。 4. 遣唐使を廃止したことで唐との国交が断絶し、緊張状態が高まったため。
- 問14 聖徳太子が定めた十七条の憲法において、「天皇の命令を承った際には、必ず慎んでこれに従わなければならない」という趣旨の一節が記された主な理由として、最も適切なものはどれですか。  
(2021年 鳥取公立入試 類似)
1. 役人の心得を説くことで、天皇を中心とする政治体制を整えるため 2. 大名の私的な婚姻を禁止し、幕府の統制を強めるため 3. 武士同士の領地争いを裁くための公平な基準を設けるため 4. 都市の工商業者に特権を与え、外国との貿易を盛んにするため

## 答え合わせ・解説

問1	答え 1 大津宮	中大兄皇子は、唐や新羅の侵攻に備えた防衛体制を整える中で、都をそれまでの飛鳥から滋賀県の琵琶湖近くにある大津宮（近江大津宮）へと移しました。この地で天智天皇として即位し、日本初の全国的な戸籍の編纂や、近江令と呼ばれる法令の制定など、国家体制の整備を進めました。
問2	答え 1 土地と人民は国家（天皇）が所有・管理するという「公地公民」の原則に基づく中央集権国家	大化の改新から始まる一連の改革は、それまで有力豪族が私有していた土地や人民を国家のものとする「公地公民」を理想としました。これは、特定の豪族に権力が集中するのを防ぎ、天皇を中心とした組織的な国家を建設することが目的でした。
問3	答え 1 百済	唐と新羅の連合軍によって滅ぼされた百済を救うため、中大兄皇子（天智天皇）は百済の遺臣らからの要請に応じ、援軍を送りました。しかし、白村江の戦いで敗れたことにより、百済の復興は果たせませんでした。その後、日本は唐・新羅の侵攻に備え、九州に防人（さきもり）を配置したり、水城（みづき）を築いたりするなど、国内の防衛体制を急速に整えることとなりました。
問4	答え 1 国博士	飛鳥時代の海外交流に関する記録によれば、遣隋使や遣唐使に同行して大陸へ渡った人々の中には、長期間滞在して現地の高度な統治システムを学ぶ者がいました。彼らは帰国後、その知識を高く評価されて「国博士（くにのはかせ）」という役職に就き、大化の改新における律令国家建設に向けた理論的な指導者として活躍しました。
問5	答え 1 中国の進んだ制度や文化を学び、国家の仕組みを整えるため	聖徳太子は冠位十二階や十七条の憲法を制定するなど、中央集権的な国家体制の確立を目指していました。遣隋使の派遣は、隋の高度な統治システムや仏教文化を直接吸収し、日本の政治改革に活かすことが大きな目的でした。また、中国の皇帝に対して対等な立場での外交を試みたことも特徴の一つです。
問6	答え 1 豪族どうしの争いを鎮め、役人としての自覚を持たせることで天皇中心の政治を目指した。	当時の政治は有力豪族である蘇我氏などが強い勢力を持っていましたが、聖徳太子は官吏（役人）の心得を定めることで、個々の豪族が勝手な行動を慎み、天皇に忠実に仕える体制を整えようとした。同時に導入された「冠位十二階」とともに、家柄にとらわれない中央集権的な国家づくりが意図されていました。
問7	答え 1 冠位十二階	この制度は、従来の家柄によって地位が決まる仕組みとは異なり、個人の実力を評価して役人を登用することを目的に導入されました。儒教の徳目に基づいた名称の冠を授けることで、官僚組織の基礎を築こうとした飛鳥時代の重要な改革の一つです。
問8	答え 1 唐や新羅の侵攻を恐れ、大宰府の北側に水城を築き、各地に山城を作って防衛を強化した。	白村江の戦いで敗北は、日本列島への直接侵攻の危機を招きました。中大兄皇子は防衛の拠点として九州に大宰府を整備し、その守りとして水城や大野城などの城を築きました。また、都を内陸の近江大津宮（滋賀県）へ移すとともに、全国的な戸籍の作成（庚午年籍）を進めるなど、中央集権的な国家体制の構築を急ぐきっかけとなりました。
問9	答え 1 唐	聖徳太子の時代の遣隋使に続き、日本では大化の改新から平安時代の中期にかけて「遣唐使」が派遣されました。日本はこの王朝の優れた政治制度である律令や、仏教、儒教などの文化を吸収することで、中央集権的な国家体制を整えていきました。選択肢にある隋は唐の前の王朝、宋や元は唐よりも後の時代の王朝です。
問10	答え 1 唐と新羅	663年、日本（倭）は百済を再興させるために軍を派遣しましたが、中国大陸を統一した唐と、朝鮮半島東部の新羅による連合軍に敗北しました。この結果、日本は朝鮮半島への影響力を失い、国内では唐などの侵攻に備えて大宰府に水城を築くなど、国防体制を急いで整えることとなりました。
問11	答え 1 唐・新羅の連合軍	660年に唐と新羅の連合軍によって百済が滅ぼされた際、日本は百済の遺民から救援を求められました。中大兄皇子（後の天智天皇）はこれに応じ、朝鮮半島へ大軍を派遣しましたが、白村江（現在の韓国の錦江河口付近）において唐・新羅の圧倒的な水軍の前に敗北を喫しました。これにより百済復興の望みは絶たれることとなりました。
問12	答え 1 中国の進んだ文化や制度を取り入れるとともに、従来の形式にとらわれない対等な立場での外交を目指した。	聖徳太子による遣隋使の派遣は、進んだ制度や仏教文化を導入する目的のほか、中国の皇帝に対して対等な立場で国交を結ぼうとした点に大きな特徴があります。阿倍仲麻呂は後の時代の「遣唐使」に同行した人物であり、奴国や卑弥呼の事例はより古い時代の外交目的です。
問13	答え 1 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れ、日本本土への侵攻が懸念されたため。	百済の復興を支援するために朝鮮半島へ送られた日本軍が、663年の白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗したことが発端です。この敗北により、当時の指導者であった中大兄皇子は、勝利に乗じた唐などが日本へ攻めてくることを恐れ、国家の存亡をかけて防人や山城による防衛線を作り上げました。
問14	答え 1 役人の心得を説くことで、天皇を中心とする政治体制を整えるため	当時は有力な豪族が力を持ち、政治的な対立が続いていました。聖徳太子は、冠位十二階によって才能ある人材を登用するとともに、十七条の憲法によって役人が天皇に従うべき道徳的な規範を明文化し、国家としてのまとまりを強化しようとした。